

第24期第1回 言語・文学委員会「文化の邂逅と言語」分科会 議事要旨

日時：平成30年1月21日（日）14:00-16:00

場所：東京大学本郷キャンパス法文2号館3階第三会議室

出席者：伊藤たかね、今西典子、梶茂樹、斎藤兆史、鳥飼玖美子、林徹、原田範行、松浦純、水野尚之（五十音順）

(1) 挨拶：分科会世話人の松浦純委員が司会を務め、自己紹介の後、以下のとおり役員選出を行った。

(2) 分科会役員の選出

第24期の役員を以下の通り互選により決定した。

委員長：伊藤たかね

副委員長：斎藤兆史

幹事：林徹、原田範行

(3) 第24期の活動方針について（以下新委員長伊藤たかねの司会による）

(ア) 前期の活動が、提言（『ことばに対する能動的態度を育てる取り組み—初等中等教育における英語教育の発展のために—』（平成28年11月4日）および関連して同タイトルで開催したシンポジウム（平成29年2月5日（日）、於東京大学本郷キャンパス）とその報告書（「特集2：初等中等教育における英語教育の課題と可能性」『学術の動向』22.11（2017年11月号）pp. 67-103）にまとめられていることを踏まえ、継続性を考慮して今期の活動を考えること、ただし、前期の活動において議論に上りながら上記提言等に含まれなかった課題（英語（外国語）教育と母語（日本語・国語）教育の連携、言語弱者の問題等）も考慮することが確認された。

(イ) 前期に検討してきた言語教育の問題と強く関連する喫緊の課題として、大学入学共通テストにおける英語試験（民間事業者による資格・認定試験の活用）および国語試験（論述式の出題とその採点方法）について意見交換を行った。2月10日に英語の民間試験活用について東京大学高大接続研究開発センター主催のシンポジウムが予定されていることが紹介され、次回分科会にはそのシンポジウム登壇者の一部に参考人としてご参加いただく方向で調整することが決定された。

(ウ) 今期の分科会メンバーに、国語教育に詳しい方が含まれていないことから、今後、国語の入学試験についても議論する場合には、必要に応じて他分科会のメンバーにご参加をお願いする可能性があること、また試験の機械(AI)採点が導入される可能性を視野に、「科学と日本語」分科会との連携を探る可能性があることが、議論された。

(4) 次回の日程について

予算状況を確認した上で、3月または4月に開催することが承認された。日程の詳細は

メールにて調整する予定である。

(5) その他

分科会の名簿および e-mail アドレスをメンバー間で共有する方向で調整することが承認された。

以上。